

令和6年能登半島地震 石川県訪問看護ステーション連絡会の後方支援



6/4 お花のお
供えありました



石川県看護協会ナースセンター
石川県訪問看護ステーション連絡会
事務局 上野谷 優子

インスタントハウス
(内側にウレタン材)
ほっこりする図柄に
癒されました



はじめに

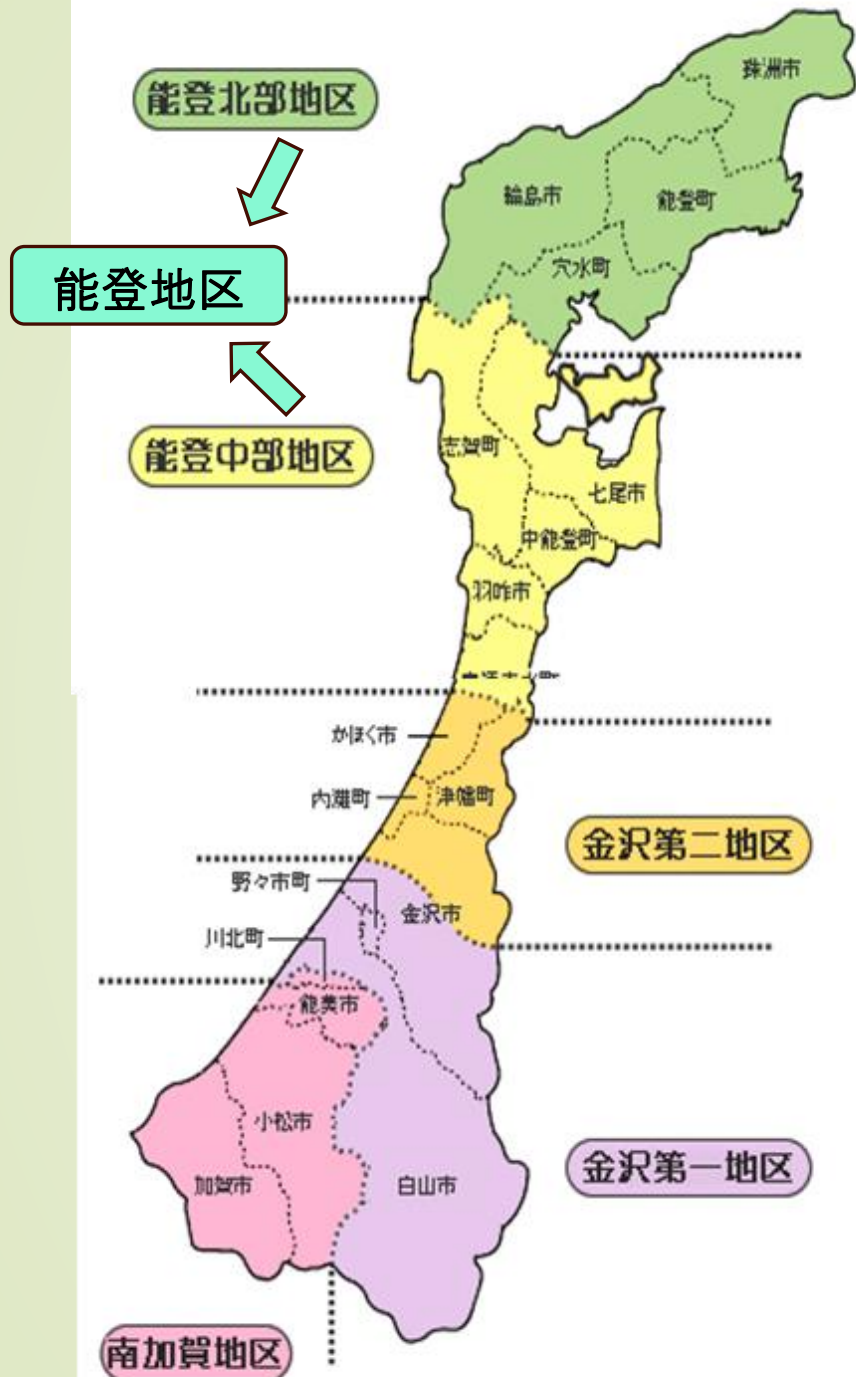
日本訪問看護財団ならびに各県の訪問看護ステーション連絡協議会のみなさまへ

能登北部地区の訪問看護ステーションからのお礼メッセージです

この度は、能登半島地震に際し多大なる支援を賜りまして、心から御礼を申し上げます。
当時の事を振り返ると、想像を超える被害の大きさに絶望し、自身も被災者となりとにかく必死で全く余裕がありませんでした。私共の事業所も全壊し、未だ再建には至っておりません。
道路や建物の復興は時間がかかりそうで、これまでのように車での移動も容易ではなくなりました。
訪問看護の利用者様の多くは遠方へ避難され、現状としては能登へ戻られる方は少なく感じます。
過疎化の進む地域で住民が減少し、環境や生活に大きな変化がありました。
しかし、皆様からの沢山の応援に心救われ、徐々に笑顔も増え前向きに行動できるようになってきました。
大好きな能登で皆様からの温かい御支援を力にして少しずつ復興への歩みを進めてまいります。
私共も地域医療の構築の為、事業を再建し皆様のお気持ちにお応えできるよう最大限の努力をする所存です。
皆様方の益々の御発展を祈念致しまして、御礼の言葉とさせていただきます。

（被災6ヶ月後のメッセージです）





平時の活動について

石川県訪問看護ステーション連絡会の地区活動

南加賀地区、金沢第一地区、金沢第二地区、能登地区（能登北部・能登中部）の、4地区で活動

グループラインについて

看護協会ナースセンターでLINEのQRコード作成し、各ステーションの管理者に友達登録説明。グループライン（地区、コアメンバー、ワーキンググループ、等）を活用。職場のスマホで登録している方は少数で、ほとんどの管理者は個人のスマホで登録。

オンラインミーティングについて

お昼休憩時間を利用して、各地区リーダーとのオンラインミーティング（12：30～13：00）を、毎月開催。地区会議もオンライン会議としていたことによって、オンライン会議の環境が整い、参加がしやすくなっている。



地震発生時の状況

震度6強

能登北部

地図の青数字は訪問看護ステーション数
(カッコ内はサテライト数)

能登北部・中部の訪問看護ステーション数
震災前：ステーション18か所と2サテライト
計20か所

道路の崩落

ライフライン（通信・電気・水道）の停止

被災状況を把握できない



石川県
ISHIKAWA



輪島市
1 (1)

輪島市

珠洲市
鳳珠郡
珠洲市
6

能登町

穴水町

志賀町
羽咋市
4 (1)

志賀町

七尾市

七尾市
中能登町
7

中能登町

羽咋市

宝達志水町

かほく市

津幡町

内灘町

能登中部

訪問看護ステーション連絡会の経時的活動

令和6年1月1日
16時10分
M7.6（最大震度6）
地震発生

日付	連絡会事務局の発信	被災地(能登地区)からの発言	県内被災地以外からの発言
2024.1.1 16:30	グループチャットで問い合わせ 地震大丈夫ですか	Aステーション:自分の身を守ることで精一杯 道が寸断されて、高いところへ行く道は渋滞	
17:30		商業施設停電、津端バイパス、鶴来方面、小松 も山方面に向かって渋滞、里山海道でかけ崩れ	
21:40		Bステーション:火事が消えません。病院も大変。 道路は割れて、冠水もあり通れない。 福祉避難所なので対応している	
		トヨタの通れたマップ参考にします	
1/2 14:15	Bステーション管理者の活動がテレビ で放映されたものをLINEで共有	実家が輪島なので避難所で過ごしている	金沢:マンションの水道管の破裂でエレ ベーターが淹のようになり、1階の事務 所は大量雨漏りしてパソコンが何台か 水没した。金沢市内も所々土砂崩れで 通行止めや片側通行
1/3	看護協会に災害対策室設置している ことの情報共有	Bステーション:炊きだしでミネラルウォーターと 無洗米でおにぎりを作ってもらっている。トイレの 水が流れないので我慢して便秘になるのも心 配。手洗いができないので感染性胃腸炎の下痢 も怖い。手を汚さずに食べられるバナナ、ミカン、 たんぱく質のとしてサラダチキン、乳酸菌飲料が 欲しい。	
	県社会福祉協議会から連絡がつかない 施設の管理者に県へ連絡してまし いと連絡があったことをチャットで県内 に連絡	スーマの人が急に能登から、加賀方面に向 かっているので受け入れしてほしい。	避難先に一番近いステーションで受け 入れ可能となり、連絡を取り合った。
	支援物資を送りたいとST間で意見あり、 訪問看護ステーション連絡会の互助 活動としてどのように行うか相談	中能登:事業所全体が浮き上がって使えない。支 援物資は高松に取りに行く体制	門前の実家に帰っており、5時間かけて 金沢に戻ってきた。電気も水も使えない ので状況もわからず不安だった。
	看護協会で一時的に収集し能登中部 (看多機)で一時保管し、能登北部にも 配送	ポータブルトイレは大きすぎて運べない 水、パン、栄養剤を看護師宅から利用者 に配っている。	

続々と情報が入り
想像以上の被害が
発生していると認識

ケアの必要な方を
避難先につなぐ事が
できた

何よりくじけそうに
なっている気持ちを
支えることが重要
そのためにできる事
を実践する



支援物資を
搬送したい

事務局が行った情報収集とその活用

1. 安否確認（スタッフ＆利用者の安否確認状況）
能登地区は電話で声かけする ➡ 停電地区は貴重なバッテリーである
声かけも躊躇する部分もあったが、元気をもらったという反応があった
2. ステーションの被災状況把握（1/5）
県内全ステーションにオンラインアンケート実施（全体の回答率79.2%）
3. 緊急訪問看護ステーション連絡会オンライン会議（2回開催）
4. 県からの災害対策に関する情報の提供
5. ステーションから把握した情報を県の保健医療福祉調整本部へ提供
6. 支援物資の収集と搬送 ➡ 物資以上に顔を見て話せたことが嬉しかった
との反応があった。

SOSが入る

1月2日 輪島の開業助産師より、避難所の母子向けのミルクとオムツが早急に欲しいとの連絡が看護協会に入った。連絡会輪島地区の管理者と繋ぐことが出来、支援のため輪島へ向っているチームに必要物資を依頼し、支援チームが搬入できたことで、必要としている母子に届けることができた。



緊急訪問看護ステーション連絡会 議事

オンライン会議（12：00～13：00）

オブザーバ 慶応義塾大学 山岸暁美先生

第1回 1月10日（58名参加）

第2回 2月14日（65名参加）

1. 被災地の現状報告

- ①災害援助法における処方について：お薬手帳を持って薬局に行っても薬を受け取れない。
薬局に周知されていない

2. 避難所での関わり

- ①テントに引きこもっている方が、ベースに精神疾患をもっており病状が悪化している
- ②中学生は、状況がわかっているのに誰とも話すことが出来ず、メンタルを病んでいる
- ③経済的に困窮している若者が、避難所を転々としている

3. DMAT・DPATとの連携

- ①DMAT、DPATが支援に入り薬を渡すが、単発での関わりのため、後日確認すると重複して服用しているケースがある

4. 被災地ボランティア （DC-CAT）活動状況



能登北部における事業所の状況

1. 事業所の損壊状況

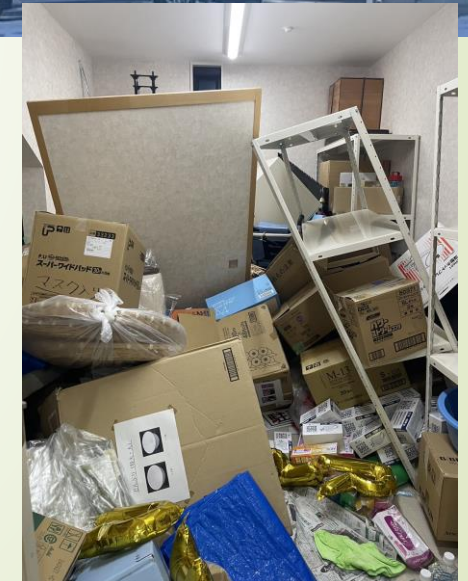
半壊・全壊で2事業所が公費解体となる

2. 能登北部のステーション数の変化

	被災前	被災後
ステーション数	7ステーション	5ステーション
サテライト数	1サテライト	3サテライト

- ・訪看ステーションが2か所廃止しサテライトに変更
- ・サテライトが一ヶ所廃止
- ・4月～リベルタ能登 開設（緊急時支援サテライト）
（公財）笹川保健財団の支援

ステーションとサテライトの割合は変化しているが、総数に変化はなかった。



BCP；訪問エリアマップ（能登地区）



能登地区では、ステーション数が少なく訪問範囲が広い地域のため、訪問看護の空白地域をなくすことや有事（感染症等）の際に複数のステーションで対応するために、ステーションの訪問可能なエリアを可視化する、訪問エリアマップを作成していた。平時の訪問エリアは塗りつぶし、有事での訪問可能エリアは斜線で記入している（図参照）

今回の大規模震災では、このエリアでの互助範囲を超えており、金沢・加賀地区からの支援の輪が広がり、年始で能登地区に帰省していた訪問看護師は避難所の支援をしていた。

今年は、訪問看護ステーションの閉鎖や緊急支援サテライト開設があり、このエリアマップは見直す予定。

震災後に感染症まん延があったことから、この相互に支援しあう関係性を継続することが大切と考える。



予備電源について

- ・ 訪問看護ステーション単体のところは、発電機を持っているところは少数だった。
- ・ 購入については、電気自動車による発電も検討に入れている。
- ・ 病院や施設に併設されているステーションは、自家発電を持っている。
- ・ 実際、長期の停電にあった施設併設のステーションは、1個の自家発電では間に合わず農協や支援者から借用し、入居者をホールに集め夜通し発電機に燃料を補給しながら対応した。
（この発電機の燃料はガソリンで、購入することも大変だった）
その後DMATに避難を依頼し、入居者全員が避難できた。
- ・ HOTの利用者は、災害時には携帯型酸素濃縮装置の対象となる方は、この機器を準備しておくことは助かると思う。



さらに

9. 21 能登地区豪雨災害が発生

8. 28 能登地区オンライン会議で、災害時の情報共有について検討

1) LINEのメリット；情報の共有がしやすい

励まされた

デメリット；疲れていると負担に感じる

上記のデメリットを踏まえたうえで、今後もLINEを活用する事とする

2) オンラインミーティングについて

顔を見ての会話は、頑張ろうという気持ちになる

被災後なるべく早くオンラインミーティングを開催する

(負担になるかと考えていたが、メリットの方が大きい)

9. 21 線状降水帯による大雨発生ニュース

14：00には地区リーダーがグループラインで発信し、情報共有をスタート

9. 24 12：30～第1回豪雨災害緊急オンラインミーティングを開催

各々の状況や思いを話す場となる

支援の必要な物資の共有⇒9. 27支援物資の搬送

検討したばかりの対策が、実践で活用することとなった。



最後に

地震被災9ヵ月後（9月21日）に発生した「豪雨災害」により、
能登地区の方々は、気持ちが落ち込んでいます。
ライフラインの整備や居住地は喫緊の課題ですが、
頑張っていこうという気持ちになれるよう支援を続けます。

関わってくださった皆様に感謝申し上げるとともに
改めて亡くなられた方のご冥福と被災地域の一日も早い復旧を
お祈りしております。

私共の経験が、今後起こり得る災害の備えに、少しでも
活かすことができれば幸いです。

ご清聴ありがとうございました

